

ヨシュア7章「神の民の罪に対する神の御怒り」

7:1 しかしイスラエルの子らは、聖絶のものの中で不信の罪を犯し、ユダ部族のゼラフの子ザブディの子であるカルミの子アカンが、聖絶のものの中から取った。そこで、【主】の怒りはイスラエル人に向かって燃え上がった。7:2 ヨシュアはエリコから人々をベテルの東、ベテ・アベンの近くにあるアイに遣わすとき、その人々に次のように言った。「上って行って、あの地を偵察して来なさい。」そこで、人々は上って行って、アイを偵察した。7:3 彼らはヨシュアのもとに帰って来て言った。「民を全部行かせないでください。二、三千人ぐらいを上らせて、アイを打たせるといいでしょう。彼らはわずかなのですから、民を全部やって、骨折らせるようなことはしないでください。」7:4 そこで、民のうち、およそ三千人がそこに上ったが、彼らはアイの人々の前から逃げた。7:5 アイの人々は、彼らの中の約三十六人を打ち殺し、彼らを門の前からシェバリムまで追って、下り坂で彼らを打ったので、民の心がしなえ、水のようになった。7:6 ヨシュアは着物を裂き、イスラエルの長老たちといっしょに、【主】の箱の前で、夕方まで地にひれ伏し、自分たちの頭にちりをかぶった。7:7 ヨシュアは言った。「ああ、神、主よ。あなたはどのようにしてこの民にヨルダン川をあくまでも渡らせて、私たちをエモリ人の手に渡して、滅ぼそうとされるのですか。私たちは心を決めてヨルダン川の向こう側に居残ればよかったです。7:8 ああ、主よ。イスラエルが敵の前に背を見せた今となっては、何を申し上げることができましょう。7:9 カナン人や、この地の住民がみな、これを聞いて、私たちを攻め囲み、私たちの名を地から断ってしまうでしょう。あなたは、あなたの大きい御名のために何をなさろうとするのですか。」7:10 【主】はヨシュアに仰せられた。「立て。あなたはどのようにしてそのようにひれ伏しているのか。7:11 イスラエルは罪を犯した。現に、彼らは、わたしが彼らに命じたわたしの契約を破り、聖絶のものの中から取り、盗み、偽って、それ自分たちのものの中に入れさえした。7:12 だから、イスラエル人は敵の前に立つことができず、敵に背を見せたのだ。彼らが聖絶のものとなったからである。あなたがたのうちから、その聖絶のものを一掃してしまわないなら、わたしはもはやあなたがたとともにはいない。7:13 立て。民をきよめよ。そして言え。あなたがたは、あすのために身をきよめなさい。イスラエルの神、【主】がこう仰せられるからだ。『イスラエルよ。あなたのうちに、聖絶のものがある。あなたがたがその聖絶のものを、あなたがたのうちから除き去るまで、敵の前に立つことはできない。7:14 あしたの朝、あなたがたは部族ごとに進み出なければならない。【主】がくじで取り分ける部族は、氏族ごとに進みいで、【主】が取り分ける氏族は、家族ごとに進みいで、【主】が取り分ける家族は、男ひとりひとり進み出なければならない。7:15 その聖絶のものを持っている者が取り分けられたなら、その者は、所有物全部といっしょに、火で焼かれなければならない。彼が【主】の契約を破り、イスラエルの中で恥辱になることをしたからである。』」7:16 そこで、ヨシュアは翌朝早く、イスラエルを部族ごとに進み出させた。するとユダの部族がくじで取り分けられた。7:17 ユダの氏族を進み出させると、ゼラフ人の氏族が取られた。ゼラフ人の氏族を男ひとりひとり進み出させると、ザブディが取られた。7:18 ザブディの家族を男ひとりひとり進み出させると、ユダの部族のゼラフの子ザブディの子カルミの子アカンが取られた。7:19 そこで、ヨシュアはアカンに言った。「わが子よ。イスラエルの神、【主】に栄光を帰し、主に告白しなさい。あなたが何をしたのか私に告げなさい。私に隠してはいけません。」7:20 アカンはヨシュアに答えて言った。「ほんとうに、私はイスラエルの神、【主】に対して罪を犯しました。私は次のようなことをいたしました。7:21 私は、分捕り物の中に、シヌアルの美しい外套一枚と、銀二百シケルと、目方五十シケルの金の延べ棒一本があるのを見て、欲しくなり、それらを取りました。それらは今、私の天幕の中の地に隠してあり、銀はその下にあります。」7:22 そこで、ヨシュアが使いたちを遣わした。彼らは天幕に走って行った。そして、見よ、それらが彼の天幕に隠してあって、銀はその下にあった。7:23 彼らは、それらを天幕の中から取り出して、ヨシュアと全イスラエル人のところに持って来た。彼らは、それらを【主】の前に置いた。7:24 ヨシュアは全イスラエルとともに、ゼラフの子アカンと、銀や、外套、金の延べ棒、および彼の息子、娘、牛、ろば、羊、天幕、それに、彼の所有物全部を取って、アコルの谷へ連れて行った。7:25 そこでヨシュアは言った。「なぜあなたは私たちにわざわいをもたらしたのか。【主】は、きょう、あなたにわざわいをもたらされる。」全イスラエルは彼を石で

打ち殺し、彼らのものを火で焼き、それらに石を投げつけた。7:26 こうして彼らは、アカンの上に、大きな、石くれの山を積み上げた。今日もそのままである。そこで、【主】は燃える怒りをやめられた。そういうわけで、その所の名は、アコルの谷と呼ばれた。今日もそうである。

導入

先週の導入部分で、エリコ陥落およびそれに続くカナンの地の掌握は神のご計画だったこととお話しました。神は、悔い改める猶予を十分にお与えになった後、その地に住む人々の罪を裁かれました。

これについて語る聖書箇所をここで改めて読むことはしませんが、先週いなかった方のために、箇所のみもう一度お知らせします。創世記15：13-16、レビ記18：24-27、そして申命記9：4-5です。

また、「すべての罪は神に対して犯すものだ」と言いました。神を信じない人だけでなく、信徒が罪を犯す場合も同じです。

7章では、神を信じない人に対しても、神を信じる人に対しても、神が罪に対しては同様に厳しくあられることがわかります。

私たちの日常生活に直接関係する多くのことをこの章から学べるでしょう。

7章の話の流れはシンプルですから、今日は聖餐式でしたので時間の都合上、この部分を改めて解説するよりも、実践応用に重点を置いてお話したいと思います。

けれどもまず、7章の文章構成について考えましょう。

7章の重要な箇所は1節と26節です。

7:1 しかしイスラエルの子らは、聖絶のものの中で不信の罪を犯し、ユダ部族のゼラフの子ザブデの子であるカルミの子アカンが、聖絶のものの中から取った。そこで、【主】の怒りはイスラエル人に向かって燃え上がった。

7:26 こうして彼らは、アカンの上に、大きな、石くれの山を積み上げた。今日もそのままである。そこで、【主】は燃える怒りをやめられた。そういうわけで、その所の名は、アコルの谷と呼ばれた。今日もそうである。

1節は、神の御怒りがイスラエル人に向かって燃え上がったとあります。そして最後の26節では、主は燃える怒りをやめられたと語ります。

7章を学ぶにあたり、全体がこのふたつの箇所に関連していることを理解しておく必要があります。

7章での出来事はすべて、神が何かについて怒っておられることが原因であるのは明らかです。

そして、その問題を解決すると、神の怒りが治まりました。

このことを念頭に、7章を学ぶ必要があります。

1. V. 1-5 – イスラエルの敗北

1節には、神が怒っておられることとその理由が記されています。この理由については、6章18-19節を読むとわかります。

ヨシュア 6：18-19

6:18 ただ、あなたがたは、聖絶のものに手を出すな。聖絶のものにしないため、聖絶のものを取って、イスラエルの宿営を聖絶のものにし、これにわざわいをもたらさないためである。6:19 ただし、銀、金、および青銅の器、鉄の器はすべて、【主】のために聖別されたものだから、【主】の宝物倉に持ち込まなければならない。」

ここで、「聖絶のもの」とは何か考える必要があります。

ストロングの聖書語句辞典によると、「聖絶のもの」とは、呪われたもの、滅ぼされるべきものです。

また、21節を見ると、聖絶のものがこの個所では何なのかがわかります。そこには、「シヌアルの外套」とあります。おそらく、バビロンの王族が身につける美しい衣服だったのでしょう。神はヨシュアに、町のはすべて破壊しなければならない、金銀などは主の宝物倉に運ばなければならないとおっしゃいました。

ひとりの人が神の指示に背いたせいで、神はイスラエルの民全員のことを怒っておられました。

これは、1節と11節から明らかです。

なぜ神はイスラエルの民全体に対して怒っておられたのでしょうか。なぜ罪を犯した人だけではないのでしょうか。

簡単に言うと、主にあってイスラエルは「ひとつの民」だからです。

出エジプト19：5-6a

19:5 今、もしあなたがたが、まことにわたしの声に聞き従い、わたしの契約を守るなら、あなたがたはすべての国々の民の中にあって、わたしの宝となる。全世界はわたしのものであるから。 19:6 あなたがたはわたしにとって祭司の王国、聖なる国民となる。

神はイスラエルの陣営の中を歩まれるお方です。ですから、陣営は「聖なる」場として保たれなければなりません。

申命記23：14

あなたの神、【主】が、あなたを救い出し、敵をあなたに渡すために、あなたの陣営の中を歩まれるからである。あなたの陣営はきよい。主が、あなたの中で、醜いものを見て、あなたから離れ去ることのないようにしなければならない。

誰かが神に従わないと、陣営を汚すことになります。そうすると、神との関係や互いとの関係に悪影響を及ぼします。

ここで新約時代への応用について考え、OICの私たちにも身近な内容に置き換えてみましょう。

現代の神の民は、「キリストにあってひとつのからだ」です。私たちは互いに属す者であり、互いを必要としています。また、互いに影響を与える存在です。

コリント第一12：12

ですから、ちょうど、からだの一つでも、それに多くの部分があり、からだの部分はたとい多くあっても、その全部が一つのからだであるように、キリストもそれと同様です。

伝道者の書9：18 知恵は武器にまさり、ひとりの罪人は多くの良いことを打ちこわす。

OICの交わりの中に罪があれば、神はからだ全体に対して不快に思われます。ですから、ひとつのからだとして前進していこうと思うなら、罪の問題を解決する必要があります。

交わり全体に注がれる神の祝福を妨げるようなものが私たちの生き方にないでしょうか。真剣に祈って神の御声を待ち望み、それでも何も思い当たらないなら大丈夫でしょう。

もし神に赦されるべき何かを示されたなら、そのことを告白しなければなりません。（ヨハネ第一1：9）

2-5節で、ヨシュアはアイを偵察するために人を送ったとあります。彼らは、アイを攻め落とすのに兵士2〜3千人で十分だと言いました。その報告は正しかったでしょう。けれども、神が陣営の中にある罪のことで怒っておられるという事実がありました。

通常でしたら、神はその人数で勝利させてくださったでしょう。

またこの個所では、ヨシュアがどうすべきか神に祈ったという記述はありません。もしかすると、エリコ侵攻の後、指導者としての自分に自信を持ってしまったのかもしれない。

神がどうなさりたいか、ヨシュアは神に尋ねませんでした。もし一日でもヨシュアが神に祈って尋ねる時間を取っていたら、神は陣営の中の罪について教えてくださったかもしれません。そうすれば、36人の人は死ななくて済んだかもしれません。

神に仕える上でどんなことをするにしても、祈りは不可欠要素です。

祈りは、クリスチャンがするべきもっとも大切な行いですが、西洋社会ではもっとも実践されていないクリスチャンの活動です。

ビリー・グラハムは、伝道大会をとおして長年大いに神に用いられました。彼の自叙伝には、もう一度人生をやりなおせるならもっと祈る時間を取る、とあります。

すばらしいリバイバルの祈りが、歴代誌第二7：14にあります。

Ⅱ歴代誌7:14 わたしの名を呼び求めているわたしの民がみずからへりくだり、祈りをささげ、わたしの顔を慕い求め、その悪い道から立ち返るなら、わたしが親しく天から聞いて、彼らの罪を赦し、彼らの地をいやそう。

謙虚さ、個人のきよめ、そして祈りの中で神の御顔を求めることは、「リバイバル」へのカギです。これは万国共通ですが、とくに日本にあてはまるでしょう。

私たちが祈りの中で神を求めるよう、神が助けてくださいますように。

私たちは、困窮の時代に生きています。イエス・キリストの再臨に向かって時は流れています。

1. 6-9節 ヨシュアが神を求める。

6節で、アイで敗北した後、ヨシュアと長老たちは一日嘆きました。

彼らは衣服を引き裂いて、神のご臨在を象徴する「箱」の前にひれ伏しました。

ユダヤ人の文化では、大きな苦悩に見舞われた際にこのように行動するのが普通です。

ヨシュアは失望し、この問題について神に祈りました。

その言葉はまるで、エジプトを出て苦労した際に神を信じなかったユダヤ人の言葉のようです。イスラエルの民が葦の海に着いた時、まだ神がその水を分かれさせておられなかったときに民が何と行って嘆いたか、覚えておられるでしょうか。（出エジプト14：11）

民は、荒野でお腹を空かし、喉が渇いたときも、まったく同じことを言いました。（出エジプト16：3、17：3）

ヨシュアは、状況のすべてを把握していなかったので、神のお約束を疑い始めてしまったのです。

つまり、陣営の中に罪があり、そのことで神がお怒りなのだということをまだ知りませんでした。

この状況について、ある注解者はこう語ります。

「信仰によって歩むとき、神が与えてくださったものをすべて獲得しようとしします。一方、不信仰は、神の最善より劣るもので妥協しようとしします。」

私たちは個人的にも、教会全体としても、神の最善より劣るもので妥協していないでしょうか。「信仰」によって歩み、神が与えてくださるものをすべてを獲得しようとしているのでしょうか。

神は、私たちの心の状態を示すために敗北を味わされることもあります。

エレミヤ17：9は語ります。「人の心は何よりも陰険で、それは直らない。だれが、それを知ることができよう。」

人は自分の心の状態をわかっていないことがあります。きよめが必要なら神はそのことを知ってほしいと願われます。（ヨハネ第一1：9）

2. 10-15節 神がヨシュアに語られる。

神はヨシュアに語られ、陣営の中にある罪について知らされます。（11節）

神は、アイで敗北した理由を明かされます。軍の人数が少なかったからではありません。また、前もって祈りのときを持たなかったことも直接の原因ではありません。原因は、ひとりの人の罪でした。

12節で、神はヨシュアに警告なさいます。それは、陣営の中の罪に対処しなければ、神のご臨在がなくなってしまうというものでした。そして、すべての部族と家族を並べて、罪を犯した人を見つけるよう指示されました。そして、罪を犯した人とその人の所有物はすべて破壊するように命じられました。

牧師の務めの中でも非常につらいものは、教会員の罪を指摘することです。

これはたいへんな務めですが、しなければなりません。神と兄弟姉妹との交わりへ人々が立ち返るお手伝いできればとてもうれしいです。しかし、常にそううまくいくとは限りません。

私のところに何らかの注進があれば、私はそれを真剣に受け止めます。その際、聖書がマタイ18：15-17で教えるステップに則って解決する必要があります。

18:15 また、もし、あなたの兄弟が罪を犯したなら、行って、ふたりだけのところで責めなさい。もし聞き入れたら、あなたは兄弟を得たのです。18:16 もし聞き入れないなら、ほかにひとりかふたりをいっしょに連れて行きなさい。ふたりか三人の証人の口によって、すべての事実が確認されるためです。18:17 それでもなお、言うことを聞き入れようとしないなら、教会に告げなさい。教会の言うことさえも聞こうとしないなら、彼を異邦人が取税人のように扱いなさい。

ヨシュアも、陣営の罪に対処するのはたいへんだっただけでしょう。しかし、そうしなければなりません。その証拠も見つけなければなりません。ヨシュアは、罪を犯した人とその証拠を突き止めました。

3. 16-26節 神の御怒りが明らかとなる。

16-26節には、罪を犯したのが誰で、何をしたのかが記されています。

7:19 そこで、ヨシュアはアカンに言った。「わが子よ。イスラエルの神、【主】に栄光を帰し、主に告白しなさい。あなたが何をしたのかが私に告げなさい。私に隠してはいけません。」7:20 アカンはヨシュアに答えて言った。「ほんとうに、私はイスラエルの神、【主】に対して罪を犯しました。私は次のようなことをいたしました。7:21 私は、分捕り物の中に、シヌアルの美しい外套一枚と、

銀二百シェケルと、目方五十シェケルの金の延べ棒一本があるのを見て、欲しくなり、それらを取りました。それらは今、私の天幕の中の地に隠してあり、銀はその下にあります。」 7:22 そこで、ヨシュアが使いたちを遣わした。彼らは天幕に走って行った。そして、見よ、それらが彼の天幕に隠してあって、銀はその下にあった。 7:23 彼らは、それらを天幕の中から取り出して、ヨシュアと全イスラエル人のところに持って来た。彼らは、それらを【主】の前に置いた。

アカンとその家族は、石打ちに処せられ、その後、火で焼かれました。

イスラエルの律法は、親族の罪のことで無実の家族が罰せられるのを禁じています。（申命記24：16）ですから、アカンの家族も、共犯だったのでしょう。

アカンの死は、神のみことばを軽んじてはならないという警告をイスラエル人の心に焼きつけました。

これは、神の民へのみせしめでした。初代教会時代、嘘をつくことについて使徒5：1-11にあるアナニヤとサツピラの話がみせしめになったのと同じです。

この話は、「福音のメッセージ」を私たちに思い起こさせてくれます。

ひとりの人をとおして、罪が人間の心に入りました。

ローマ5：12

そういうわけで、ちょうどひとりの人によって罪が世界に入り、罪によって死が入り、こうして死が全人類に広がったのと同様に、——それというのも全人類が罪を犯したからです。

私たちがいつか死んでしまうという事実も、このひとりの人が元凶です。

罪が人間の性質という陣営に入り込み、神が罪を罰しなければならなかったのです。

神は、正しく聖なる神であられるので、私たちのうちにあるすべての罪を罰しなければなりません。

しかし、愛とあわれみをもって、逃げ道を備えてくださいました。

ヨハネ3：16

神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。

神の目から見て、今日の皆さんには個人的に罪はないかもしれません。

もしあるなら、神の赦しを体験してください。今すぐに、神の愛と赦しを体験することができます。

アカンのように自分の罪を隠そうと思いませんか。多くの人たちのように罪があることを認めるのを拒みますか。そんなことをしても、いつかあなたの罪は神によって暴かれ、永遠の罰を受けると聖書は語ります。

今こそ救いの日、今こそイエスを信じるときです。

クリスチャンの方は、もしかするとあなたの生活の中に神が指摘しておられることがあるかもしれません。今自分が置かれた状況の中で、何かとくに注意をひかれたことはありませんか。それには理由があるのかもしれません。

誰かに分かち合って、一緒に祈ってもらう必要があるかもしれません。

礼拝後に祈る機会をどうぞ活用してください。

では、祈りましょう。